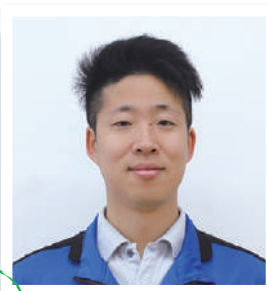




北部営農センター
村瀬 雄飛



訪問日:3月18日

高品質な ジャガイモ出荷に向けて



瀬戸市で農業を営む伊藤成人さんの圃場に出向きました。伊藤さんはジャガイモの定植準備を進めており、苦土石灰の散布作業を行っていました。

苦土石灰はカルシウムやマグネシウムを補給する土壌改良資材として欠かせませんが、ジャガイモ栽培においては「**過剰な施用に注意!**」が鉄則です。ジャガイモは弱酸性(pH5.0~6.0)の土壌を好み、苦土石灰を過剰に施用すると、アルカリ性(pH7以上)土壌となり、「**そうか病**」の発生を招くリスクがあります。



そうか病

土壌中の放線菌の影響で発生する病気で、ジャガイモの表面にかさぶた状の斑点が現れるのが特徴。そうか病による斑点は、見た目を損ない、販売時の大きなマイナス要因となります。

伊藤さんには、**苦土石灰の袋に表示された基準量を守り、適正に施用することの重要性**を説明しました。また、土壌pHを正確に把握することも有効なため、畑の状態を解析できる「**土壌診断**」を紹介しました。

土を採取してJAへ提出することで、データに基づいた最適な施肥バランスについてアドバイスや提案が可能です。

お近くの営農センターへ
ご相談ください!



今後も状況を確認しながら、良質なジャガイモが収穫できるよう、引き続き栽培指導を続けていきます。

